

初等教育学科のさらなる充実

本学人文科学部に初等教育学科が設置されてから4年を経て、平成23年4月に教育学部初等教育学科が誕生しました。これまでの実績を踏まえて、初等教育学科をさらに充実していく時といえます。本学園の創立の理念は去華就実、すなわち華やかさにとらわれず実学を重んじることです。教育・保育の現場で役に立つ実践力を育てることは、これからも不易のこととして重視していきます。実践力を身につけた卒業生が社会でさらに活躍することを期待しています。それと共に流行、すなわち最新の教育内容と方法を取り入れることが必要とされます。これは教育学部の完成年度に向けて、現在、進行しているところです。不易と流行の両面からの充実で、学生が豊かに育っていくことを願っています。



初等教育学科長
秋吉 博之



～有森裕子先生 講演会感想文～

先生による特別講義が、就実大学教育学部学生等を対象として行なわれました(参加者450名)。

初等教育学科1年 森 亮介

有森先生はご自身の体験談を踏まえた、たくさんのお話をしてくださいました。どの話の内容もとても濃く、あっという間に終わってしまいました。

将来、小学校の先生になることを目標としている私にとって、とても興味深いものでした。「先生の言葉には、人生を変えてしまう程の影響があるのか」と驚くとともに、「子どもたちをよく観察し、『強み』を伸ばしていける先生になりたい」と強く感じました。

「何事も諦めないことが大切。自分の長所を生かせることをみつけ、エネルギーを注いでほしい」という有森先生からいただいた言葉を忘れず、より多くのことに挑戦していきたいです。そして、私の人生だけでなく、子どもたちの人生もより充実させたものにしていきたいです。



キッズ・スポーツ 体験キャンプ



『キッズ・スポーツ体験キャンプ』は、日本のトップレベルの監督・コーチによる指導で、いろいろなスポーツを楽しむことのできるイベントです。今年は、第8回のキャンプが平成23年8月9日～8月12日の3泊4日の日程で、就実大学の体育館や祇園グラウンドを主会場に開催されました。就実大学客員教授の有森裕子先生がナビゲーターとして参加し、岡山県内各地の子どもたち68名が参加して行われました。

初等教育学科1年 時岡 紗也

私たちはキッズスポーツ体験キャンプで、元マラソン選手である有森裕子さんをはじめ、数々の選手や監督にスポーツを教えていただきました。

私は学生リーダーとして参加させていただき、良い経験になったと感じています。喧嘩やトラブルなど悩んだこともありましたが、子どもたちのキラキラとした笑顔につられて、私たちも笑顔になるような素敵なキャンプでした。

この4日間を通して、努力は決して裏切らないということ、体が自由に使えることの素晴らしさなど様々なことを先生方から学び、みんなで体を動かすことの楽しさを感じることができました。この経験をこれから生かしていきたいと思っています。



研修旅行

研修旅行とは、就実大学初等教育学科に入学して初めてのイベントで、友達や先生との親睦を図るための旅行です。



私たち1年生は4月15日と16日、一泊二日の日程で神戸・京都へ研修旅行に行ってきました。1日目は新幹線で神戸に向かい、初めに「人と防災未来センター」を見学しました。東北で起こった大震災の記憶が新しいだけに、震災がもたらす恐怖と防災の必要性を強く感じました。昼食は豪華な神戸牛のランチをいただき、クラスごとに南京町を散策しました。その後バスに乗って向かったのは京都です。京都では、伝統産業の見学を兼ねて「清水焼」の絵付けを体験しました。慣れない作業に苦戦しながらも、それぞれ思い思いの作品が出来上がりました。

夕食後はホテルの大広間で交流会が行なわれ、各クラスでこの日のために練習してきた出し物を発表しました。クラスの出し物は様々で、吉本新喜劇を再現したり、AKB48になって、踊るクラスもありました。このクラスでは女子だけでなく男子もスカートを履いて、AKB48になりきって踊っていました。

各クラスの工夫を凝らした出し物で大いに盛り上がった後は、初等教育学科恒例のじゃんけん列車です。ここでは、まだ話したことのない友達や先生と一緒に盛り上がるのができ、友達の輪を広げるきっかけにもなったと思います。ジャンケンに勝ってハイタッチをしている友人の姿を見ることで、先生方を含めて初等教育学科の一体感を味わうことができました。

2日目は自主研修のため、班別で立てた計画に沿って京都を巡りました。歴史や文化に触れると共に、クラスの仲間と交流を深める良い機会にもなりました。この研修旅行で、新しい友達が出来たり新しい発見があったりと有意義な2日間でした。これから4年間、共に学んでいく仲間に出会えたことを本当に嬉しく思いました。

初等教育学科の運動会は、1・2年生合同で、交流をいっそう深めるために企画された行事です。

初等教育学科 教育心理学科

第4回

合同運動会



初等教育学科2年 長畑 由美

6月11日(土)に、本学体育館で第4回合同運動会を開催しました。当日はあいにくの雨模様でしたが、初等教育・教育心理学科の1・2年生200人あまりが参加し、悪天候など関係なしという盛り上がりでした。初めは緊張感もあり少しぎこちない雰囲気でしたが、徐々に打ち解け、最後に踊った「ウルラ」では学年や学科の壁を越え参加者が一つになったように感じました。

今年は教育学部新設に伴い、初等教育学科・教育心理学科に新入生を迎えました。そこで、みんなとかかわる機会をもちたいと考え、今年はずいぶん二学科合同で開催しようと、約3ヶ月間実行委員のみなんで準備を進めてきました。円滑に会を進めるために先生方にも協力をいただき、よりよい会にするために前日まで試行錯誤を続けました。当日も運動会が始まるまでは不安で一杯でしたが、各クラスで一丸となって協力し競い合う姿を見て、その不安もどこかへ行き、心から楽しむことができました。

今回実行委員長を務めさせていただき、ひとつの会を一から企画・運営することの難しさや責任のある立場に立つことの重圧など、たくさんのことを体験し学ぶことができました。また、協力してくれる仲間の大切さや大人数で一つのことに取り組む楽しさなど改めて気づかされることも多くありました。今回成功させることができたのは、先生方のご尽力や地域の方々のご理解はもちろんのこと、参加してくれた学生の皆さんなど、この会を開くにあたって関わってくださったすべての皆様のおかげだと心から感謝しております。私が一年生の時に先輩方が企画・運営してくださった第3回の運動会を通して、自分が2年生になったらこの楽しさを後輩に伝えたい、そしてなにより自分がまた楽しみたいと思い実行委員になったように、両学科それぞれにこのような素晴らしい行事が今後も受け継がれ、教育学部全体が進展していくことを願っています。



教育保育インターンシップ

初等教育学科1年生が夏期休業中、それぞれの現場でインターンシップに行きました。

保育所

初等教育学科1年 佐藤 久美子

私は、保育所へインターンシップに行きました。子どもたちと一緒に遊び共に生活する中で、現場でないと決して学ぶことができない事をたくさん経験することができました。今回の経験を通して、保育士の仕事の楽しさや厳しさを学び、保育士になりたいという気持ちがさらに高まりました。

この貴重な経験を生かし、積極的にボランティア活動に参加するなど、保育の現場で活躍できるように日々勉強に励みたいと思います。



小学校

初等教育学科1年 友實 愛

私は、小学校で、5年生を担当させていただきました。不安でいっぱいでしたが、教室に入った瞬間、児童たちの笑顔とパワーで不安もふきとびました。しかし、「教師」は難しく、自分はまだ「学生」なんだと実感しました。この5日間でこれからの課題を見つけることができ、教師になりたいという気持ちも強くなりました。短い期間でしたが、とてもいい出会いと経験ができ、本当に有意義なインターンシップとなりました。

幼稚園

初等教育学科1年 清家 有紗

私が学んだことは、子どもの目線に立って話をしたり、聞いたりすることです。声をかけるときには、肯定的に興味をもてるような言い方をすることが、大事であると感じました。かける言葉によって子どもに与える影響が異なることを知り、適切な言葉のかけ方・褒め方・叱り方を身につけたいと思いました。

毎日、子どもたちの成長を見ることができて、笑顔が溢れる5日間でした。これからも子どもとふれあう機会を積極的にもち、将来に繋げていきたいと思っています。

学童保育

初等教育学科1年 小野 真優子

私はインターンシップで学童保育に行かせていただき、本当に子どもたちからたくさんのパワーと感動を貰いました。特に印象深かったことは、最終日に行われたドッジボール大会で、見事多くのチームの頂点に立ったことです。練習を毎日見てきた私たちにとってはとても喜ばしく、涙が出るほど嬉しい出来事となりました。短期間でしたが、大きな収穫となり夢に向かうための糧となる貴重な経験となりました。

オススメ絵本・児童書は何ですか？

初等教育学科1年生～3年生を対象に「おすすめ絵本・児童書」についてのアンケートを実施しました。

初等教育
学生に
聞いた

おすすめランキング!!

絵本

児童書



はらぺこあおむし
(偕成社)
作: エルリック=カール
訳: もりひさし



かいけつゾロリ
(ポプラ社)
作: 原ゆたか



**だるまさんの...
の次に何がくるのか
わくわく♪トキドキ☆**



**ゾロリがかつよく
問題解決!**

だるまさんシリーズ(株)プロンズ新社
作: かがくいひろし

ぐりとぐらシリーズ(福音館書店)
作: なかがわりこ・やまわきゆりこ

スイミー(光村書店)
作: レオ=レオニ 訳: 谷川俊太郎

エルマーの冒険(福音館書店)
作: ルース・スタイルス・ガネット

学生委員イチオシ 絵本・児童書紹介

からすのパンやさん(偕成社)
作: かこさとし

たかさんの
パンが
できてるよ



だんまりこおろぎ(偕成社)
作: エルリック=カール
訳: くだななおこ

最後に
びっくいる
仕掛けが...



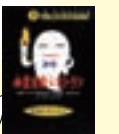
あらしのよるに(講談社)
作: 木村裕一
絵: あべ弘士

心温まる
お話です



怪談レストラン(童心社)
作: 松谷みよこ

読み始めたら
とまらない!



ご協力ありがとうございました



実習

保育所保育実習を終えて

初等教育学科2年生は、保育士資格を取得するために平成23年8月18日～9月9日の20日間、公立・私立の保育所へ実習に行ってきました。

初等教育学科2年 笠井 那珠

初めて実習に臨んだ私にとって、最も理解に時間がかかったことは、「子どもたちが楽しいと思える保育にするためには、保育者自身が楽しむこと」でした。

実習が始まってから、私は環境になかなか慣れることができず、緊張する状態が続き、自分が思い描いていた子どもとのかかわりができないことが何度もありました。そんな時に先生方は「あまり考えずに、思ったまま、感じるままに子どもと一緒に楽しんで」と助言をしてくださいました。しかし、頭では理解をしていますが行動に移すことが難しく、日々葛藤していました。

試行錯誤しながらも時間は過ぎ、私たち実習生によるお別れ会の日が近づきました。子どもたちやお世話になった先生方へ感謝の気持ちを込めて準備をすすめ、何度も練習しました。お別れ会が終わった時、私は達成感でいっぱいになると同時に楽しかったという思いが溢れてきました。私はこのとき、子どもが真剣に見てくれていると実感するとともに自分も楽しむ

ことができました。先生方からもたくさんの言葉を頂き、とても嬉しく思いました。

最後の反省会で、園長先生から「お別れ会当日までに一生懸命準備をしたでしょう。しっかりと準備することは自信につながりますよ」という言葉を頂きました。この言葉を聞いて、今までの実習で自分に欠けていたものに気付くことができました。

今回、実習で学んだことや感じたことをこれからの学習にしっかりと生かし、将来の目標に向かって日々成長していきたいと思います。



幼稚園教育実習

平成23年9月1日～9月28日の4週間、公立・私立の幼稚園に初等教育学科3年生が実習に行きました。

初等教育学科3年 赤瀬 捺記

初めての幼稚園実習で、始まる前は4週間という期間がとても長く感じ、子どもとのかかわりから自分の指導まで、すべてにおいて不安を抱えていました。しかし、今では「もっと子どもたちと一緒に過ごしたかった」という思いでいっぱいです。幼稚園教育実習を通して私は、子ども達の成長に喜びを感じ、保育という仕事のやりがいを改めて実感しました。

私がこの実習で最も印象に残っているのは、子どもたちの個人差、個性についてです。同じ5歳児でも一人一人に違いがあるということは理解しているつもりでしたが、実際に指導する立場になって初めて分かることも多くありました。

特にそれを感じたのは、製作活動の指導をした時です。「子どもたちに楽しんでもらいたい」という思いから考えたものですが、個人差についての配慮が不足し、実態に合わない指導になってしまいました。限られた時間に対して活動内容が多すぎたと反省しています。活動内容が多すぎたことで子どもたちの混乱を招くだけでなく、私の気持ちにも余裕がなくなって

しまいました。

これらの体験を通して私は、一人一人の子どもを知ると同時に集団としての子どもの実態を把握することの必要性を感じました。また、先生からは「積極的に話しかけてくる子どもばかりに注目してしまいがちだが、しっかりできていない子どもや困っている子どもに気づいて関わることも大切」というアドバイスをいただき、視野の広さも身につけたいと感じました。

たった4週間という短い期間でしたが、子どもたちの成長を感じる場面が本当に多くありました。私は子どもたちの成長が見られる度に、「みんな同じだったら毎日つまらないだろうな」「いろんな子どもがいるから毎日が楽しいし、個人差があるからこそ一人一人の成長を本当に嬉しく感じるのだろうな」と心から思いました。これからボランティアにも積極的に参加し、実践力を身につけていきたいと考えています。



小学校教育実習を通して

平成23年5月10日～6月12日の4週間、小学校教諭1種免許を取得するため、実習に行ってきました。

初等教育学科4年 国正 耕一郎

教育実習に行くまでは、本当に何もわからない「どうなるのだろう」という思いでいっぱいでした。しかし、始めてみれば、わずか4週間という短い期間でしたが得たものは大きく、教育実習終了後の自分は明らかに変わっていました。

まず、自分に足りないものに気づくことができました。初めての授業、生徒指導、学校行事など、戸惑い失敗することが多くありました。1回目の授業では道徳の授業をしましたが、自分の設定していたねらいを子どもたちに上手く感じ取らせることができませんでした。導入・発問・板書など、問題点を挙げればきりがなほど多かったはずですが。授業後の反省会で気づいたのは、自分の書いた指導案通りの展開しか頭に入っておらず、教師を中心に授業を進めてしまっていたことです。子どもたちの発言や子どもたち同士の話し合いの中で、子どもたちを中心に授業を進めていく技を身につけ、子どもたちが“〇〇の授業は楽しい”と思える授業づくりをしていきたいと感じました。

次に教師という職に対して真剣に向き合い考えるようになって

たことです。自分が教師として子どもたちに何ができるのか、自分は教師としてどのような子どもたちを育てたいのか。わずか4週間の教育実習では答えを出すことができず、今でも考えることがあります。

これから、教師として多くの失敗や成功を経験していくと思います。その中で、日々教師として子どもたちにできることを考え、育てたい子ども像を明確にし、強い芯をもった教師になりたいと思いました。



施設保育実習

初等教育学科2年生が、保育士資格取得のために、平成23年10月17日～10月26日の計10日間、それぞれの施設へ実習に行ってきました。

初等教育学科2年 荻野 咲季

私は児童養護施設へ実習に行かせていただきました。入所児童の中には年齢の近い子どももいるということを知り、実習以前は期待と不安の入り混じった不思議な気持ちでした。しかし実習が始まると10日はあっという間で、とても充実した時間を過ごすことができたと感じています。

この施設保育実習を通して、私は、物事に積極的に取り組むことの大切さを実感しました。思春期を迎えた子どもと話すなど、普段通り関わろうという気持ちはあっても、言葉を選ぼうとするあまり、ぎこちない会話になってしまうこともありました。そこで私は「おはよう」の挨拶から、子どもたちにいつも笑顔で接するように心がけました。上手いかななくて悩むことも多くありましたが、この経験から問題意識をもって行動すること、諦めないことの大切さを学ぶことができました。また常に意味を考えながら行動することで、失敗しても何度も挑戦していく姿勢を身につけることができたと感じています。これらの経験を大学での学びに役立てていきたいです。

介護等体験

3年生の小学校教諭1種免許取得希望者は、それぞれの場所で、2日間と5日間の計1週間の介護等体験に行ってきました。

初等教育学科3年 木村 彩

私は、特別支援学校の小学部に2日間、特別養護老人ホームに5日間行かせていただきました。特別支援学校小学部の授業では、一人ひとりにあったプリントや時間割が立てられていたり、教室に一日の活動の流れが絵や写真で表わされていたりと、児童が混乱しないような様々な工夫がなされていました。

2日目には、他の小学校との交流会があり、楽しそうに遊ぶ児童たちの姿を見ることができました。「一見、通常学級の児童と変わりはないが、人とコミュニケーションをとることが苦手な児童もいる」ということをより多くの児童たちに理解してもらうために、今回のような交流を行うことは、とても大切だと思いました。

特別養護老人ホームでは、職員の方々が利用者さんを大切に思っていることを強く感じました。思いを表現することが難しい方の気持ちを読み取って、言葉をかけ、家族のように接しておられる姿を見て、心が温かくなりました。

人が人を理解したり、支えたりすることは簡単なことではありません。しかし、私はこの実習を通して、心が通じ合えたと感じた瞬間の喜びの大きさを感じました。これから、人の思いを理解しようとする姿勢を忘れず努力していこうと思います。



小野田先生 講演会

モンスター・ペアレント論を超えて

— 保護者と向き合う気持ちと教職員の共同性 —

初等教育学会では、平成23年11月13日に小野田正利先生(大阪大学大学院教授)をお招きして、初等教育学科全学年を対象に講演会を開催しました。



小野田正利先生

大阪大学大学院人間科学研究科教授。教育学博士。長崎大学教育学部講師を経て、1997年から現職。専門は教育制度学・学校経営学。「学校現場に元気と活力を!」をモットーに、

近年では、保護者の無理難題要求(イチャモン)や学校保有情報の発信(片小ナビ等)などをテーマに、現場に密着した研究活動を展開している。年間に舞い込んでくる講演依頼は数百件にも上る。主な著書に『悲鳴をあげる学校』(旬報社)、『親はモンスターじゃない!』(学事出版)など。

【先生のミカタウェブ】より抜粋



初等教育学科3年 都田 修兵

最近モンスターペアレントという言葉をよく耳にするようになり、私は「恐ろしい親が増えている」という印象をもっていました。「そのような親がいなければいいのに」「もし出会ったらどうしたらいいのだろうか」という不安を抱いてこの講義に臨んだ人も多数いたのではないかと思います。実際に私もその一人で、本講演を聞くまで保護者対応に関する知識をもたずして「モンスターペアレント」という言葉を平気で使っていました。

小野田先生の講演会を受けて「モンスターはいない」ということや、クレームとして対処してしまうことで、せっかくいただいた貴重な情報を見落としてしまう可能性があることなど、教師として重要な視点を学ぶことができました。

また先生は具体例を用いながら、保護者にも様々な背景があること、教師がそれらの問題に向き合って知ろうとする姿勢をもつことが解決に繋がること、教師同士の助け合いが大切だということなどを伝えてくださいました。これらの学びは、教育現場に立った際、私の助けになるものだと思います。謙虚な気持ちを忘れず自信のもてる授業づくりをし、保護者の方から信頼していただけるような教師になりたいです。

ワークショップ

講演会の後、午後から教育実践研究センター主催のワークショップが開催されました。このワークショップには講演会同様、現場で働かれている先生方も参加されていたため緊張感もあり、新鮮な気持ちで臨むことができました。

内容は「エコロジー・マップの作成」「ロールプレイング」でした。エコロジー・マップとは模造紙に対象者を中心として、周辺にある社会的要因を書き込んでいくというものです。対象者の現状、家族・近隣の人についてなど、



思いつくものを図に書き表していきます。そうすることで、対象者が抱えている問題について様々な角度から考えることが可能になると同時に、職場内での共通認識を図る手助けになるものです。

また、ロールプレイングでは、教師役・校長役・保護者役・子ども役に分かれて対応をしました。学校チームと保護者チームそれぞれに、「どのような保護者なのか」「何に対して不安を覚え、怒っているのか」などが記してあるプリントを配布して行なわれました。現職の先生方には最初は保護者役、次に教師役で参加していただくことで、より考えさせられるものになりました。

ワークショップに参加して

初等教育学科3年 岡野 凌

私は、ワークショップに参加させていただいて、2つの視点の大切さを知ることが出来ました。それは、「教師から保護者」への視点と、「保護者から教師」への視点です。

私たち学生は、普段の講義等の中で、教師とはどのようなもので、どのような資質を備えておくべきかということは多く学びます。しかし、保護者の目線に立ち考えていくという機会はめったにありません。

私は今回のワークショップで、物事を多面的に見ることの大切さや、独りよがりにならず他教師と連携することの大切さについて再認識することが出来ました。これらはすべて、実際に現場に出たとき、大変重要な要素であると感じます。今回のワークショップで学んだことを、実践にしっかり生かしていけるように努力していきたいです。そして、自分たちが目指す理想の教師像に、少しでも近づいていけるように精進していきたいと思っています。

初等教育学科4年生 古川 雄一

初等教育学科3年生 赤瀬 捺記 乙倉 里衣 山崎 智也

【説明】

私たちは平成23年12月3日に愛媛県松山市にある東雲女子大学で開催された、中四国保育学生研究大会に参加させていただきました。この大会は、中国・四国地方にある大学で保育を専攻している学生が、一年間の研究の成果を発表します。論文の発表内容は、演奏、劇など様々で、15分間に学校独自の持ち味や積み重ねてきた研究の集大成が表現されていました。この多様な発表を見て、大変感銘を受けました。

【感想】

特に印象に残っているのは、参加者の“表現力”です。彼らの表現力は、私たちの想像を遥かに上回るものでした。人形劇では人形を体の一部として動かし、場面にあった音響を選択することで情景を思い浮かばすことができるよう工夫されていました。

また、演劇で感じたことは、一人ひとりの動きは多彩であるにもかかわらず、一つの物語としてのまとまりがあるということです。さらに、衣装・セットを工夫することで、物語の世界に観客を引き込んだり、面白さや怖さなどの感動をその場で感じるような不思議な感覚を味わうことができたりすることを学びました。

参加者の「やりきった」という表情から、この日に向けての努力や葛藤があったことが伝わり、一つのことに取り組むことの素晴らしさを感じました。

【今後について】

今回、中四国保育学生研究大会に参加させていただいたことは、私たちにとって大変意義のあることであり、就実大学もこの場に参加したいという気持ちを強くもちました。この気持ちを少しでも形にしていきたいという思いから、私たちは初等教育学科で有志を募り、ブラックパネルシアターを発表することを目標に活動しようという考えに至りました。

今後は、先生方と相談しながら保育実践の場で経験を積み、実践力の向上に努めたいと思っています。



附属幼稚園・保育所 開園



平成24年4月より、附属幼稚園・保育所が開設されることになりました。大学のキャンパスからも近く、子どもの成長の「場」とすると同時に、学生の実践力を育てる「場」、研究の「場」としての機能もあるようです。子どもの成長を身近に感じながら、私たち自身も保育者としてまた教師としての知識・技能を深めながら成長していきたいと思っています。



僕の 私の たいけんき どうかく 体験記

初等教育学科2期生が卒業を迎えます。様々な環境で活躍の場を見つけ、挑戦する学生を紹介します。そんな学生に以下の3つの質問に答えてもらい、自らの経験した体験談を語ってもらいました！

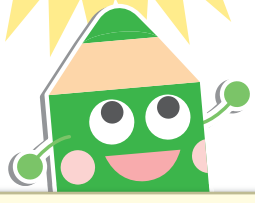
池田 瑞穂【一般就職・書店】

「先生にはならないのですか」と面接官に問われたとき、答えることができますか。お世話になった先生に、全力で先生への道を応援されたことはありますか。大学に入学して教育について学び、多くの葛藤を経て出した結論が一般就職です。先生になりたくないのではなく、私には教壇に立つことよりも、大好きな本を通して後ろから子どもたちをサポートする方が向いていると感じたからです。就職は手段であって目的ではありません。自分の将来に妥協せず、納得のいく道を選んでください。教育を学んだみなさんであれば、きっとどんな職業についても活躍できるはずですよ。

- A1 常に「ニコニコ、キビキビ、ハキハキ、コツコツ」
- A2 ズバリ、看板娘!!
- A3 先を憂いて今を迷すな、先を見据えた今を生きろ。

こんな質問をぶつけてみました!!

- Q.1 就職・採用試験の時、大切にしていたことは?
- Q.2 これからの目標?
- Q.3 後輩へ一言!



河原 奈々帆【施設職員】

夢だった保育士になるため、4年間勉強してきたおかげで、障害者施設の生活支援員という新たな夢に巡りあえました。施設実習での経験や卒業研究で発達障害について学んでいくうちに、純粋な気持ちをもった入所者とかかわり、もっと笑顔溢れる毎日になるよう手助けをしたいと思い、施設職員を目指すようになりました。障害があっても、人に「ありがとう」と感謝されることがその人にとって大切なこと、そのような気持ちをもち、活動をしているという話を職員さんから聞き、とても共感しました。そのような素敵な施設で働けることを嬉しく思います。専門的な知識は少ないですが、入所者のために精一杯頑張っていきたいです。

- A.1 自分の気持ちに素直になること。
- A.2 働きながら、専門的な資格の取得!
- A.3 自分の納得する就職先をとことん探してください。

長谷川 直哉【私立保育士】

「自分自身の実践力を伸ばしたい」。大学4年生の春の思いから、私は年間通して保育園へボランティアに通うことを決めました。保育園での仕事は自分にとってはとても大変で、失敗することもたくさんありましたが、壁にぶつかることで、自分の力は間違いなく伸びたと思います。この園で働きたいという気持ちが強くなった頃、園長先生から試験を受けてみないかと言って頂き、受けることを決めました。園長先生からそういった言葉を頂けたことは、自分が春からやってきたことが少し認めてもらえたような気がして、本当に嬉しく思いました。さらなる成長を目指し、精一杯頑張ろうと思います。

- A.1 常に楽しむ気持ちを忘れない。
- A.2 自分にできることをコツコツ頑張る。
- A.3 ボランティアに通ってください。必ず力になります!

多田 有里

【岡山市公立小学校教諭】

私は4年生になるまで、本当に教師になりたいのか、なってよいのかと悩んでいました。しかし、4年生での教育実習を通して教師になることを決心し、それからは必死で勉強しました。私の合格に力を与えてくれたのは、毎日一緒に勉強し、模擬授業や面接練習をした仲間や先生方の存在です。時には、厳しいことを言い合い、互いのために支え合ってきました。その支えにより苦手なことにも挑戦でき、教員採用試験を通して自分に自信がもてるようになりました。失敗を恐れず自分をアピールできたことが、良い結果に結びついたのだらうと感じています。

- A.1 どんな時でもポジティブに!
- A.2 誰からも頼られる教師になりたい。
- A.3 今からでも遅くないので、自分のできることを頑張ってください。

板野 真佐子

【岡山市公立幼稚園】

私が採用試験において、「これだけは誰にも負けない!」と強く自信をもっていったことは「先生になりたい」という思いでした。ピアノも製作も得意ではありません。3か月という長い試験期間の中で、諦めかけてしまうことが何度もありました。その度に、「先生になりたいんだ」と自分に言い聞かせました。何度もぶつかった苦手なことに対して、きちんと向き合っていく中で、自分自身が成長できたと感じています。「これだけは誰にも負けない!」という自信をもてるものが一つでもあれば、何に対しても挑戦できると強く思いました。

- A.1 やるときと、やらないときのメリハリ。
- A.2 どんな時も楽しみ、挑戦する気持ちを忘れない
- A.3 思いは伝わります!

初等教育学科の卒業生及び学生の活躍を祈っています!!

編集後記

私たち学生委員は色えんぴつの作成にあたって、「少しでも多くの人にみてもらいたい」「初等教育学科のことを多くの人に知ってもらいたい」という思いをもって取り組みました。いろいろ大変なこともありましたが、力を合わせて仕上げることができました。ぜひご覧ください。

- | | | | |
|--------|-----|-------|-----------|
| 学生運営委員 | 4年 | 国正耕一郎 | 古川雄一 |
| | 3年 | 乙倉里衣 | 日笠由貴 東智子 |
| 教員編集委員 | 2年 | 加藤佑美 | 佐藤香菜子 |
| | 1年 | 河内一貴 | 佐藤久美子 友實愛 |
| | | 中尾駿介 | 森亮介 |
| | 柏まり | 竹中伸夫 | 本田真美 村田恵子 |